

日本スポーツ社会学会会報

Vol. 31

Sport Sociology

【目 次】

- ・日本スポーツ社会学会
第11回大会「プログラム」…………… 1
- ・学術会議社会学研連の報告…………… 7
- ・研究委員会からのお知らせ…………… 9
- ・事務局からのお知らせ…………… 12
- ・会員動向…………… 15
- ・編集後記・事務局住所…………… 17

日本スポーツ社会学会

Japan Society of Sport Sociology

事務局 立命館大学 2002年3月

日本スポーツ社会学会第11回大会

期 日 2002年3月28日(木)・29日(金)

会 場 九州大学六本松キャンパス 福岡市中央区六本松 4-2-1

参加費 正会員：6,000円 学生会員：3,000円

懇親会費：3,000円（当日申し込みも可能です）

大会実行委員会事務局

〒816-8580 春日市春日公園 6-1 九州大学健康科学センター内

Phone/Fax：092-583-7855 e-mail：yamamoto@ihs.kyushu-u.ac.jp

学会当日の連絡先：092-726-4808（健康・スポーツ科学相談室）

後 援 九州大学大学院人間環境学府・研究院

交通案内

空 路：福岡空港→（地下鉄1号線）→JR博多駅下車（あとは次のJRと同じ）

J R：JR博多駅→西鉄バス（20分～30分）→九州大学・六本松停留所

西 鉄：西鉄福岡駅→西鉄バス（約15分）→九州大学・六本松停留所

高速バス：JR博多駅下車（あとはJRの場合と同じ）

西鉄福岡駅下車（あとは西鉄の場合と同じ）

*バスの時刻や運賃、路線等については、以下の「にしてつ総合時刻・運賃案内」をご覧ください。<<http://www.1.nnr.co.jp/nnr/traffic/timetable.htm>>

<ご注意!!>

本キャンパスには、十分な駐車スペースがありません。学会は平日に開催されますので、車で来られますと教職員に迷惑がかかる恐れがあります。車での来場はご遠慮ください。

スケジュール

	11:00	12:00	13:00		17:00	18:00	20:00
3月28日(木)	理事会	受付	一般発表		総会	懇親会	
29日(金)	一般発表	特別講演	昼食	テーマセッション			
	8:40	11:30	12:30	14:00	16:00		

*大会実行委員会企画として予定しておりました「公開フォーラム」は、一般発表の演題が予想以上に多く中止となりました。

3月28日(木)

受付 12:00~13:00 新1号館入り口
一般発表 13:00~17:00 新1号館3階

<N130会場>

13:00~14:00 司会:菊 幸一(奈良女子大学)

田島 良輝(早稲田大学大学院):

スポーツ政策過程と公共性

水上 博司(三重大学):

地域スポーツ組織の公共性に関する一考察

-岸和田市山直スポーツクラブの事例研究-

<休憩> 14:00~14:10

14:10~15:10 司会:山本 教人(九州大学)

山口 泰雄、長ヶ原 誠(神戸大学)、土井 隆(神戸商科大学)、

高見 彰(関西国際大学):

スポーツ環境指標による地方自治体のスポーツ環境の分析

石澤 伸弘(神戸大学大学院)、山口 泰雄(神戸大学):

ウォーキングイベントに対する参加者の期待とプログラムライフサイクルに関する研究 -加古川・瀬戸内倉敷ツアーデーマーチ参加者の比較分析-

<休憩> 15:10~15:20

15:20~16:50 司会:三本松正敏(福岡教育大学)

平井 肇(滋賀大学):

「スポーツ社会学」の授業のための相互支援ネットワークの構築

-アジア・太平洋地域を中心に-

小谷 寛二(呉大学):

総合的学習における河川環境教育と「川に学ぶ」社会の形成

-その1 指導者養成をめぐる-

舛本 直文(東京都立大学):

オリンピック教育のためのスポーツ映像の活用

-文化論的な問題群の焦点化に向けて-

<N132会場>

13:00~14:00 司会:藤井雅人(福岡大学)

小野寺直樹(横浜国立大学大学院)、海老原 修(横浜国立大学):

日本サッカー協会合同出場措置の意味

中塚 義実(筑波大学附属高等学校):

ユースサッカーの構造改革 -DUOリーグ6年間の実践報告-

<休憩> 14:00~14:10

14:10~15:10 司会:高橋義雄(名古屋大学)

棚山 研(立命館大学):

サッカー・サポーター・グループの可能性 -W杯開催地(新潟)の事例から-

二宮 雅也(筑波大学大学院):

サポーターの感情社会学的研究 -コンサドーレ札幌サポーターの感情世界-

<休憩> 15:10~15:20

15:20~16:50 司会:大沼 義彦(北海道大学)

小野瀬剛志(東北大学教育学研究科):

「日本的スポーツ観」研究における視点と戦時下の体育界のスポーツ思想との関係性について

白石 義郎(久留米大学):

バンカラと応援団 -旧制学生文化における対校戦の機能-

立木 宏樹(九州保健福祉大学):わが国のスポーツ文化とグローバリゼーション

<N133会場>

13:00~14:00 司会:柏原 全孝(追手門学院大学)

千葉 直樹(中京大学大学院):日系人アイスホッケー選手の移住動機に関する研究

森 康司(九州大学大学院):大学運動部員の社会意識についての一考察

<休憩> 14:00~14:10

14:10~15:10 司会:渡辺 潤(東京経済大学)

高橋 豪仁(奈良教育大学):

あるスケボー少年たちによる「スケボー・コート設置を求める会」と彼らのスポーツ享受スタイルについて

田中研之輔(筑波大学大学院):

都市空間の管理により増幅する「異質性」 -スケートボードの囲い込みから-

<休憩> 15:10~15:20

15:20~16:50 司会:梅津顕一郎(呉大学)

海老原 修(横浜国立大学):包摂と排除よりみるプロレスラー力道山
小林 正幸(法政大学大学院):プロレス批判の言説分析
藺田 碩哉(実践女子短期大学)、上柿和生(スポーツデザイン研究所):
スポーツ・ノンフィクションの動向について

総会 17:00~18:00 N130会場
懇親会 18:00~20:00 軽食堂2階

3月29日(金)

一般発表 8:40~11:30 新1号館3階

<N130会場>

8:40~9:40 司会:リー・トンプソン(大阪学院大学)

池本 淳一(大阪大学人間科学研究科):ボクシングの社会学
山本 敦久(筑波大学大学院):黒人ボクサーの表象と身体の政治

<休憩> 9:40~9:50

9:50~11:20 司会:西村 秀樹(九州大学)

飯山 善昭(東海大学体育学部):力くらべの合理化
後藤 貴浩(群馬大学):
障害者スポーツにおけるカテゴリー化に関する研究
-車椅子バスケットボールチームにおける実践を通して-
早川 武彦(一橋大学):Citius, Altius, Fortius の意味するもの

<N132会場>

8:40~9:40 司会:白石 義郎(久留米大学)

岡田千あき(大阪外国語大学):
途上国開発とスポーツ -開発協力フレームワークの構築に向けて-
小林 勉(信州大学):
途上国における社会開発ツールとしてのスポーツの有効性に関する検討

<休憩> 9:40~9:50

9:50~11:20 司会:谷口 勇一(大分大学)

中島 信博(東北大学):「スポーツ・タウン」から「スポーツ・クラブ」へ
矢崎 弥(米沢女子短期大学):
コミュニティメディアとしてのスポーツクラブ
-オーストラリアのサーフライフセイビングクラブを事例として-
五香 純典(筑波大学大学院):
イングランドのフットボールにおけるクラブとコミュニティの関係
-1990年代における商業化の再検討を通じて-

<N133会場>

8:40~9:40 司会:小椋 博(香川大学)

麻生 征宏(筑波大学大学院):
現代における賭けに関する考察 -競馬予想の過程から-
迫 俊道(広島市立大学大学院):フロー理論とフロー体験の検討

<休憩> 9:40~9:50

9:50~11:20 司会:小谷 寛二(呉大学)

畝木真由美(岡山大学大学院):
「踊る」観念の多義性に関する研究
-「身体の脱秩序化と再秩序化」を視点として-
小坂 美保(奈良女子大学大学院):
近代日本における都市と身体 -明治・大正期の公園を手がかりに-
桜井 学(順天堂大学大学院)、野川 春夫(順天堂大学):
青少年スポーツ事業の評価システムの構築
-PRECEDE・PROCEEDモデルの援用-

特別講演 11:30~12:30 N130会場

William W. Kelly (Professor, Chair, Department of Anthropology, Yale University)
Failure in Sport:

Accepting Disappointment In Japanese Professional Baseball

昼食 12:30~14:00

1. 「日韓ワールドカップとメディア言説」 <N132会場>

<報告>

小笠原博毅 (ロンドン大ゴールドスミス校)

「イギリスのメディア言説にみる2002年W杯とポスト・コロニアル・メランコリア」

ファン・ソンビン (立命館大学)

「スポーツ報道に見る日韓相互イメージ」

森津 千尋 (同志社大学院)

「韓国テレビのW杯表現 ～「市民文化運動」広報番組の意味するもの」

<コメンテーター>

ルシアナ・ヴィエラ (滋賀大学大学院/ブラジル・スポーツジャーナリスト)

<司会/コーディネーター>

黒田 勇 (関西大学)

2. 「身体と学校」 <N133会場>

<報告>

黄 順姫 (筑波大学)

「身体・学校・記憶の産出」

野崎 武司 (香川大学)

「多元的祝祭としての運動会」

松田 恵示 (岡山大学)

「生身の身体神話とスーパーフラットなスポーツ」

<司会>

杉本 厚夫 (京都教育大学)

2001年12月11日、日本学術会議の社会学研究連絡委員会〔略称社会学研連〕の第18期・第4回委員会が開催されました。山下事務局長等の調整によって、地理的にもっとも出席しやすい平野が会合に出ました。議題は相当多岐にわたりましたが、以下順序不同に重要と考える要点だけをご報告し、会員各位のご注目を喚起したいと考えます。出席者は学術会議から塩原勉氏・蓮見音彦氏、推薦母体側からは日本社会学会を含む各学会です。

なお、下記の報告に関連する報告書などに関しては、ぜひ日本学術会議のサイト<<http://www.scj.go.jp/>>の他、関連政府機関のサイトの中でご参照おき下さい。

i) 学術会議総会等報告のうちから

(1)学術会議のあり方をめぐる討議を重ねている旨の報告あり。周知の通り、学術会議は選出資格を持つ各学会から会員を選出し、学術研究・教育に関して「ボトムアップ」の見解を国の政策に反映させる機関です。しかし近年、各種審議会・諮問委員会などの答申による「トップダウン」に文教政策が進められる傾向が強くなった。学術会議としては、このことに大きな関心を持っているとの報告がありました。

(2)学術会議報告書「古典学の必要性について」が公表されたので、科学技術ならぬ、精神の基幹を研究する科学の重要性を考える上からも、ぜひ参照されたいとの報告がありました。関連して農水大臣諮問にたいする「地球環境・人間生活に関わる農林水産業」などの参照を得たいと言及がありました。

(3)平成15年度以降の科研費補助金の分科細目が、従来の細目から変更される旨報告されました。従来の部「文学」、分科「心理学・教育学・文化人類学」、細目「社会学」は、文科省改訂中間報告によって、部「社会科学」、分科「社会学」、細目「社会学」に変更される。科研費予算自体は若干の増加とのこと。

ii) 社会学研連主催シンポジウムについて

同シンポジウム企画案として次の骨子の提起があり、関連した討議がありました。()内の氏名は報告者の選任役または報告者です。

(1)第1企画案 (2001年度実施)

主題「日本社会学のグローバル化：その課題と展望」。報告1「日本社会学研究のグローバル化の課題」(上野千鶴子)、報告2「日本社会学教育の文脈と課題」(新睦人)、報告3「日本社会学と自然科学のフロンティア」(似田貝香門)。

(2)第2企画案 (2002年度実施)

主題「インターネット・コミュニケーション技術時代の社会調査」細目未定、今後調整。この研連主催シンポジウムに関する討議は、特に多岐にわたるかつ晦渋な発言が長時間にわたって交わされたので、単純に要約できません。そこで、平野個人の観点か

ら気付いた点を摘記します。

第2企画案に関連して、IT (ICT) 時代になったから社会調査士の資格の制度化によって社会学を売り込むべきだといった、まるで40年前の社会士資格をという要求再来のようなバブル発言が一方にありました。しかし塩原委員などが控えめに、しかし熱心に提起しておられたのは、言い換えると「社会学の存在理由(アイデンティティ)を新しい世紀にあたり深く再考すべきではないか」ということと考えます。学術会議会員としては当然の問題提起と思われまます。「社会学はこんなに実利に役立つから文教予算を」などというのは、学術全体の振興策をボトムアップに提起する学術会議の使命に照らして、明らかに安易すぎる思想だからです。上記「古典学」の必要性や、近く学術会議公開講演会の企画内容として「<教養>の風格と活力」(実施未定)が構想されていることなどを考えれば、想像に難くないと思います。もし発言せざるを得ない状況になったら「公衆にとっての教養とは何か」を研究・教育できるのは、社会科学の中で社会学しかないので、これが社会学の存在理由だと答えるつもりでした。幸い(頭を低くしていたので)発言せずにすみましたが。

ともかく、この問題は当学会を含む日本社会学関係者全体が避けて通れない問題と思われまます。過日も書きましたが、日本社会学会名簿による会員の専攻分野は何と30を越えています。日本で社会学に携わる研究者が1/30研究者にならぬよう研究者養成に意を用いることこそ、当学会をはじめとする社会学関係者の責務であるとの観を深くしました。

お断りした通り、最後のコメント部分は平野の責任で書いたものです。また、上記の第1企画案は本年3月14日に実施される予定です。

研究委員会からのお知らせ

●特別講演とテーマセッションのご案内

研究委員会では、九州大学の学会大会において、3月29日に、下記のような特別講演とテーマセッションを企画しました。多数のご参加をお待ちしております。

委員長 杉本 厚夫

特別講演

**Failure in Sport :
Accepting Disappointment In Japanese Professional Baseball
William W. Kelly***

Conclusion : the irrationality at the heart of sports rationality

The rationalization of physical contests that Allen Guttmann has shown us to be the hallmark of modern sports may bring formalization and quantification but it does not bring certainty-neither prospective certainty in predicting future outcomes nor even retrospective certainty in evaluating past outcomes. It is no surprise that we remain unable to predict what will happen from moment to moment in a sporting event. But it is surprising to realize that the high rationalism of modern sports does not bring more certainty to analyzing that which has occurred-which is success for a few and failure for most.

Outcomes-an at-bat over, an inning over, a game over, a season over, a career over-resolve the suspense of the moment, but they only heighten the conditions of suspense for the next moment and deepen our perplexity about the allocation of responsibility for the outcome just produced. This perpetual uncertainty is, I conclude, the Weberian irrationality at the heart of sports rationality.

* Professor, Chair, Department of Anthropology
Yale University

PRINCIPAL PROFESSIONAL ACTIVITIES :

Member, Editorial Board, Journal of Japanese Studies, 1998 -

PUBLICATIONS :

2000 "Fans as Consummate Producers" (introduction) and "Sense and Sensibility at the Ball Park : What Japanese Fans Make of Professional Baseball" (case chapter) for a volume in preparation edited by Kelly, Stevens, and Yano, *Fanning the Flames : Fandoms and Consumer Culture in Contemporary Japan*.

テーマセッション

1. 《日韓ワールドカップとメディア言説》

現代のスポーツイベントはメディアを抜きにしては考えられない。とりわけ本年日韓共催で開催されるワールドカップは、世界で延べ600億人の人がテレビで視聴するとも言われる最大のメディア・イベントでもある。世界中のほとんどの人にとって「ワールドカップ」とはメディアによる言説である。ワールドカップの大部分はメディアとオーディエンスが構築していく現実だという言い方もできるだろう。学会の2年間にわたる研究プロジェクト「ワールドカップとメディア」の一年目は、メディアがいかにワールドカップを語っているのかに焦点を当てたい。放映権問題をはじめとする送り手の問題やオーディエンスの問題は、来年度総合的に取り上げたい。

<報告>

・小笠原博毅（ロンドン大ゴールドスミス校）

「イギリスのメディア言説にみる2002年W杯とポスト・コロニアル・メランコリア」

・ファン・ソンビン（立命館大学）

「スポーツ報道に見る日韓相互イメージ」

・森津 千尋（同志社大大学院）

「韓国テレビのW杯表現 ～「市民文化運動」広報番組の意味するもの」

<コメンテーター>

・ルシアナ・ヴィエラ（滋賀大学大学院／ブラジル・スポーツジャーナリスト）

<司会／コーディネーター>

・黒田 勇（関西大学）

2. 《身体と学校》

学会の研究プロジェクト「スポーツする身体社会学」の一年目は、じっくりと腰をすえて基本的な問題に取り組み、来年度にまとめて報告を行うこととなった。そこで本大会ではプロジェクトとはひとまず切り離して、「身体と学校の今」を1つのトピックスとしてセッションを開き、プロジェクト研究の課題を発掘する試みをしてみたい。

近代の「マジメな身体」が魅力を失い、それに代わる身体モデルを欠いたまま閉塞感を深める現代社会。「マジメな身体」の訓育装置であった学校の今も、規律訓練（フーコー）と「ポストモダンの気分」の延長上を、同様にあてもなく揺らいでいるように見える。今後、身体と学校はどのような社会学の中で、いったい何を生み出し、そして何を生み出せなくなっていくのか。近代化が終焉を迎えつつあるという「その後」の身体と学校に焦点をあてて、身体に対するパースペクティブをさらに広げることを試みたい。

<報告>

・黄 順姫（筑波大学）

「身体・学校・記憶の産出」

・野崎 武司（香川大学）

「多元的祝祭としての運動会」

・松田 恵示（岡山大学）

「生身の身体神話とスーパーフラットなスポーツ」

<司会>

・杉本 厚夫（京都教育大学）

事務局からのお知らせ

●ヨーロッパ・スポーツ社会学会大会第一回大会ご案内

ウィーン大学のProf. Otmar Weiss 氏より、事務局宛にヨーロッパスポーツ社会学会第一回大会の案内が参りました。日本からの参加を望んでおりますので、機会ございましたらよろしくご参加ください。なお事務局にパンフレット、申込書が数部届いておりますので、お問い合わせください。会議の概要以下のようなようです。また詳細は本文末尾記載のホームページをご覧ください。

European Association for Sociology of Sport EASS

1st Conference of EASS

"European Integration and Sport" May 30-June 2, 2002, Vienna

Subtopics

- ・ Social Integration and Sport
- ・ Globalization and Regionalization/Differentiation in Sport
- ・ European Integration and the Role of Ethics and Legislation in Sports
- ・ Sport, Culture and Identity in a Changing Europe
- ・ Sport-Politics and Organizational Issues in the European Transformation Process
- ・ European Integration: Consequences for Sport
- ・ Papers and Posters which Present the Result of More Specific Research Projects are also welcome
- ・ Open Papers

Abstract Submission

The deadline for submission of abstracts is March 31, 2002.

Registration Fee

Registration fees are to be paid no later than April 30, 2002.

Venue

The conference will be held at "Schloss Wilhelminenberg," Savoyenstrasse 2, A-1160 Vienna, Austria, May 30-June 2, 2002.

Contact Address

All questions, suggestions, abstracts, registration and communications are to be directed to

Ms. Petra Hilscher

Universitaet Wien, Institut fuer Sportwissenschaft/ Abteilung Sportsoziologie

Auf der Schmelz 6 a, A-1150 Wien/ Austria

Web: <http://www.univie.ac.at/eass>

●日本スポーツとジェンダー研究会（仮称） 設立記念第1回研究会のお知らせ

中京大学の高峰 修会員より、「日本スポーツとジェンダー研究会（仮称）」の案内が届いています。関心のある方は、本文末尾記載の連絡先にコンタクトをお願いします。

開催の趣旨

新しい世紀を迎え、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が、緊要の課題となっています。国内では、1999年に男女共同参画社会基本法が公布・施行され、国際的には、女性差別撤廃条約、北京行動綱領、さらには世界女性スポーツ会議における成果文書であるブライトン宣言等が採択され、効力を発揮しつつあります。

しかし、それらの条約や法制度の整備に比べてスポーツにおける男女平等・公平を推進する運動、それを牽引する理論構築が十分ではないように思われます。わが国におけるスポーツのジェンダー研究を概観すると、体力や競技記録を性別に分析したカテゴリー的研究、メディア、コーチ・管理職、競技種目や参加に関する配分的研究が多くを占めています。スポーツのジェンダー・ポリティクスを解明するには、スポーツがどのようにしてジェンダーの支配構造を支え、ジェンダーの再生産装置としての役割を担ってきたか等、関係論的研究が必要ですが、これらの研究はまだ緒についたばかりです。

本研究会はこのような状況に鑑み、「スポーツにおける男女平等・公平の達成」「ジェンダー・フリーなスポーツ文化の構築」を目標に、定期的な研究会の開催、研究誌の発刊、HP公開などの活動を行っていくことを趣旨としています。今回の設立記念集会には、研究者、教育関係者、行政担当者、スポーツ指導者、競技者、スポーツ愛好家やスポーツを専攻する学生たちなど多くの人々にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

開催日：2002/6/22（土）

開催時間：13:00-16:30（11:00-12:00設立総会）

会場：ドーンセンター（大阪府立女性総合センター）

大阪市中央区大手前1-39-49（Tel.06-6910-8500）

参加費：2,500円

鈴木 知巳

堀 健治

退 会 者

神 文雄

*先日配布いたしました「日本スポーツ社会学会会報 Vol.30」に誤りがございました。
ここに謹んでお詫び申し上げ、以下のように訂正いたします。

21頁

金 圭鐘 明治学院大学大学院→明治大学大学院

編 集 後 記

只今、ソルトレーク・オリンピックが開催中です。選手よりも審判、記録よりも規則が目された大会として、歴史に名を残すことになるかも知れませんね。

でも、テレビ中継、結構楽しんでます。特に、カーリングに興味津々。箒のようなものでゴシゴシ掃きながら石のようなものを滑らせてゆく様子がユーモラスですが、なかなか奥の深いスポーツであることを発見しました。

氷の張った本物の施設だと何かと大変なので、ゲームセンターにあるエアホッケーのようなものができれば、かなりはやるのではないのでしょうか。そのうち、カーリングも夏季オリンピックの種目になって、暖かい所の選手も活躍するようになるかも知れませんね。

(HiJimmy)

日本スポーツ社会学会会報 第31号 2002年3月7日発行

日本スポーツ社会学会事務局 (立命館大学・産業社会学部内)

◎学会への連絡、入退会、住所・所属変更、会費納入、その他の各種手続き

〒603-8577
京都市北区等持院北町56-1
立命館大学・産業社会学部内
日本スポーツ社会学会事務局 山下高行 (理事・事務局長)、川口晋一

◎会報への投稿等

〒520-0862
滋賀県大津市平津2-5-1
滋賀大学・教育学部
平井 肇 (理事・会報担当)

◎学会のホームページ

日本スポーツ社会学会ホームページ
<http://sport.kyokyo-u.ac.jp/jsss/jssshp.htm>
web master: 杉本厚夫 (理事・HP委員長)

入会申し込み書

(※事務局へご返送願います)

ふりがな 氏名:	会員種別 (どちらかを○で囲む) 正会員 ・ 学生会員
紹介者: (推薦人)	専門分野:
※必ず記入してください	
勤務(所属)先:	
勤務(所属)先住所: 〒	
TEL:	FAX:
自宅住所: 〒	
TEL:	FAX:
※任意です	
郵便物の発送先 (どちらかを○で囲む) 勤務(所属)先 ・ 自宅	
E-mail: ※任意です	

叢書・身体と文化1 16341

技術としての身体

●野村雅一・市川 雅 編著

身体は文化的に形成された一つのしかけである。人間の感覚そのものから身体技術のさまざまな断面とそれらの社会的・文化的な意味を検証する。 ●456頁 本体4,000円

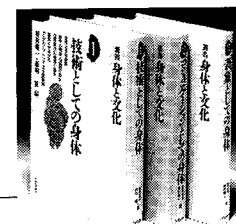
叢書・身体と文化2 16342

コミュニケーションとしての身体

●菅原和孝・野村雅一 編著

身体の原初的な能力から社会・文化的脈絡の中で帯びる儀礼性・象徴性に至るまで、コミュニケーションとしての身体の多彩な働きを描きだす。

●456頁 本体4,000円



叢書・身体と文化3 16343

表象としての身体

●鷹田清一・野村雅一 編著

身体は何が第一的な機能かわからないほど豊かな意味の世界を持っている。身体が多様な文化の中で、どう解釈・表現されているかを考える。

●456頁 本体4,000円

ゼミナール 現代日本のスポーツビジネス戦略

●上西康文 編 ●A5判・240頁 本体2,400円

新たなビジネスチャンス創造のための21世紀型スポーツマーケティング戦略とは?



スポーツ経営学

●山下秋二・畑 政・富田幸博 編

●A5判・380頁 本体2,800円

スポーツ経営学を体系化し、実務者はもちろん初学者にもわかりやすく解説。



民族遊戯大事典

01260

●大林大良・岸野雄三・寒川恒夫・山下晋司 編集

文化人類学・スポーツ人類学の新進・ベテラン執筆陣95名の力作納め、多数の貴重な写真を駆使した、見て、読んで、楽しい事典。

●菊判・800頁 本体9,800円

図説 スポーツの歴史

26352

《世界スポーツ史》へのアプローチ

●稲垣正浩・野々宮徹・寒川恒夫・谷釜了正 著

人間にとってスポーツとは何か。歴史的視点からその「現在」と「世界性」を問う。オールカラー

●B4変型判・264頁 本体18,000円

体育学講義シリーズ

26140

スポーツ社会学講義

●森川貞夫・佐伯聰夫 編著 ●菊判・296頁 本体19,000円

現代社会とスポーツ

26203

●P・C・マッキントッシュ 著 ●寺島善一・岡尾恵市・森川貞夫 編訳

●A5判・240頁 本体1,748円

スポーツ産業論

26332

●松田義幸 著 ●A5判・282頁 本体2,300円

スポーツ倫理を問う

●友添秀則・近藤良享 著

●四六判・256頁 本体1,800円

日本のスポーツ界に噴出する問題を、倫理的視点からどう考えるかの指針を示す。



スポーツ・ヒーローと性犯罪

●ジェフ・ベネディクト 著

●山田ゆかり 訳 ●四六判・338頁 本体2,200円

英雄たちは、なぜ許されぬ罪を犯したのか。



大修館書店 〒101-8466 東京都千代田区神田錦町3-24 [出版情報] <http://www.taishukan.co.jp>

FAX注文書

▼書店にない場合やお急ぎの方は、この注文書にご記入のうえ、下記宛先へFAXまたは郵送にてお送りください。ご注文から一週間以内にお届けします。(一般の書店ではご利用になれません)

	冊	円
	冊	円
	冊	円
	冊	円
	冊	円

■お支払い方法 (番号に○をお付け下さい)
1. クレジットカードご利用(送料=310円) 2. 代金簿払い(送料=380円)

▼クレジットカードご利用の方は必ずご記入下さい。
クレジットカード名(番号に○をお付け下さい)
1 JCB 2 UC 3 VISA 4 Master
すべてのJCBカードならびにDC・MCなどすべてのVISA・Masterカードがご利用いただけます。

ご芳名 ふりがな
ご住所 都道 府県
電話番号 ()

カード番号
カード有効期限 年 月
お支払い方法 (○をお付け下さい) 1回 2回 リボルビング
ご署名
FAX 03-5999-5435
TESクラブ大修館書店注文センター
〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-4-8
電話03-5999-5434

21世紀スポーツのキーワード 講座 現代文化としてのスポーツII

スポーツ／メディア／ジェンダー

鈴木守・山本理人 編著 A5版248頁 本体2600円

高度化と大衆化の二つのベクトルを持ちつつ日々成長しつづける現代スポーツ。本書でとらえた「メディア」と「ジェンダー」という視点は、21世紀のスポーツ文化を読み解く上でのキーワードとして、ますますその重要度を増していくものと考えられる。スポーツの持つメディア性、身体運動の文化と社会的／文化的性差との関わり等々について、多様な切り口から分析する。

〔主要目次〕

I スポーツ／メディア

- 1 テレビメディアの特性とスポーツ文化 * 2 テレビ放送とスポーツの商業化 * 3 スポーツとジャーナリズム * 4 スポーツヒーロー論 * 5 スポーツイベントのメディア力 * 6 英国スポーツ文化論 * 7 イギリス人とフットボール * 8 近代文学とスポーツ

II ジェンダースポーツ

- 9 ジェンダーと社会 * 10 ジェンダーと“こころ” * 11 青年期のジェンダー * 12 ファッションとジェンダー * 13 文学の中のスポーツとジェンダー * 14 近代スポーツとジェンダー * 15 マスメディア・ジェンダー・スポーツ

メディアとスポーツ、生涯スポーツ、スポーツ産業など、現代スポーツの諸相を探る

スポーツ文化の現在（いま）

講座 現代文化としてのスポーツ / 鈴木守・山本理人編著 / A5版266頁 本体2600円

豊富な図表資料、保健体育テキストに最適

大学生の健康・スポーツ科学

大学生の健康・スポーツ科学研究会 編 B5版216頁 本体2400円

心身ともに健康で、生き生きとした日々を送るにはどうしたらよいか？
現代社会における運動・健康・スポーツの意味について、各分野の専門家が概説する。

日本柔道の原点を見つめ、将来の発展に立ち向かう

柔道の視点——21世紀へ向けて

竹内 善徳 編著 / 柔道指導者研究会 編 A5判244頁 本体2800円

I 歴史と文化 / II 教育と指導 / III 競技と強化 / IV 強化と科学の各章を、研究・指導の最前線にある専門家が担当、新たな概説書が誕生した。柔道人の必読の書！

〒171-0042 東京都豊島区高松 2-8-6

道 和 書 院

TEL (03) 3955-5175

FAX (03) 3955-5102